



やぐら通信

～ひとみキラキラ豊かな心と体の矢倉っ子～

型に入って型を出す

型とは、武道、茶道、花道、職人など、さまざまな道における伝統的な習得法である。

およそ達人といわれる人物は、型を尊び、それを自然なふるまいにまで修めている。「隙がない」といっていいだろう。われわれおとなの日々の仕事や趣味でもこのことはあてはまるし、子どもが夢中になる遊びにおいてもあてはまるどころが多分にある。まずは見よう見まねで型を得て、もっとよくなろうと型の習得に励みつづけるということだ。

いつもはあまり目立たない身近な人が、その世界に入った途端、すばらしい動きを見せる、そんな姿に出会うと、よくここまでがんばれるものだと賛辞を贈りたくなってくる。と同時に、そのモチベーション、やる気はどこから生まれてくるのだろうかに興味もわいてくる。

心理学研究の雑誌だったのだろうか、興味深いことが綴られていたのを思い出す。それは、ここで取り上げている型である。それは一定のポーズ、やるぞというような強気のポーズをとると、やる気物質なるものが体内で発生するらしい。

これまで、どちらかという三日坊主に終わりやすい私の場合、たかが型ではないかと、これまでは型をあまり重視していなかった。しかし、されど型とばかり、この4月の異動を機会に、みんなに迷惑をかけないように、そして少しでも初心に還らねばと型を意識し、子どもたちにとって少しでもためになる大人になろうと決意した。

平成 29 年 4 月 10 日、矢倉小学校は 102 名の新 1 年生を迎え、全校児童は 620 名となりました。

新年度を迎えるにあたって職員も子どもたちとともに、よりよく成長しようと気持ちを新たにしています。家を出るとき、鏡の前でにっこり笑顔をつくってみるというように、子どもも大人も元気の出る型を手に入れていきたいものです。

どうぞよろしく願いいたします。

